

2026年度(令和8年度)入学者のために

副専攻 履修の手引き



兵庫県立大学 高等教育推進機構

目 次

副専攻について、学際リーダーとは……………	1
-----------------------	---

【副専攻】

1. 地域創生リーダー教育プログラム (RREP) ……	3
2. グローバルリーダー教育プログラム (GLEP) ……	7
3. 防災リーダー教育プログラム……………	10
兵庫県立大学副専攻規程……………	14

副専攻について

本学では、主専攻（所属学部の専攻）以外にも学びの機会を拡げるため、副専攻を用意しています。

いずれのプログラムも、「現代社会における種々の社会的課題等に学際的な視点から対応でき、優れたリーダーシップを発揮できる人材」（学際リーダー）の養成を目指した科目となっています。また、プログラムごとに定めた修了要件を満たすと、修了証書等が交付されます。

未来の自分への投資と考え意欲的に取り組んでください。大きく飛躍されることを期待しています。

本冊子は、副専攻規程（P14～16）第2条第4項及び第3条について定めるものです。

学際リーダーとは

全ての副専攻プログラムが養成を目指す「学際リーダー」とは、学際的な立場から現代社会における国内、国外における種々の課題等に対して、

- (1) 目的を達成するための課題の発見や実態の把握等ができる
- (2) 有効な課題解決の方法等を応用し、発信できる
- (3) 関わる人々の意見を有機的に集約し、それに基づいた解決策、方策等を提案できる
- (4) 高い公平性を有している

人材と定義しています。

■ プログラムの選び方

兵庫県やまちづくりに関心がある。

地域創生リーダー教育プログラム

英語や海外に関心がある。

グローバルリーダー教育プログラム

防災や復興支援に関心がある。

防災リーダー教育プログラム

※副専攻は、重複して履修することはできません。

～学部・大学を超えて、地域に入り、地域の方とともに、地域で学ぶ～

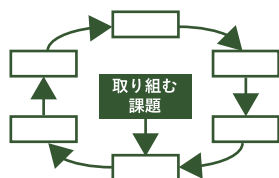
1 プログラムの目的・ねらい

この副専攻「地域創生リーダー教育プログラム（Regional Revitalization Education Program 通称：RREP）」では、人口減少が進む現代社会における多様な社会的課題に対して、その背景や関係性を含めて構造的に捉える学際的な視点から向き合い、地域社会との対話と実践を通じて、新たな社会像の創出に挑戦できるリーダーを育成することを目的としています。

本プログラムでは地域の現場での体系的な実践経験を通じ、多様な人々の声を束ねる対話力、地域にあるさまざまな課題のつながりを理解する俯瞰力、そして、地域に好循環を生み出す公平な解決策を実践を通じて生み出す共創力を身につけます。

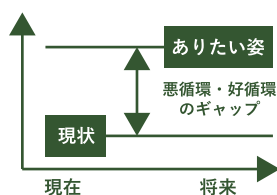
本プログラムを修了した場合に、学部では「学際リーダー（地域創生）」、大学院では「コミュニティ・プランナー」の称号が授与されます。

関係者から 考えを引き出す 対話力



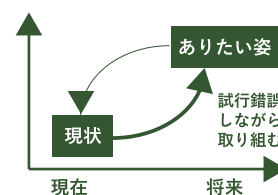
<シェアド・リーダーシップ>
 ・チームビルディング
 ・関係者マッピング
 ・半構造化インタビューなど

大きな システムをみる 俯瞰力



<システム・リーダーシップ>
 ・システム思考/因果ループ図
 ・行動観察/参与観察
 ・ケーススタディなど

見通しを立て 好循環を生み出す 共創力



<ペースセッティング・リーダーシップ>
 ・組織の成功循環モデル
 ・プロジェクトマネジメント
 ・AARサイクルなど

2 求める学生像

- ・地域で活躍する将来像を探りたい。
- ・地域と関わりながら実践的に学びたい。
- ・地域を元気にするために行動したい。

上記の思いを持ち、地域で活躍する人たちとの出会いと実践的な現場での経験を通じて、様々な分野で活躍したいと考えている学生。



3 プログラムの概要

地域プロジェクトに取り組む中で、未来を見通し、行動し、その結果をふり返って次の学びにつなげる学習サイクルを通じて、自分自身の行動を見直しながら繰り返し挑戦する経験を、学際的な教員チームと地域リーダーで伴走支援します。

さらに、インターンシップでは、地域で活躍する多様なリーダーに出会い、学生一人ひとりの将来像に応じた「地域で活躍する力」を探究できる点も、本副専攻の大きな魅力です。



4 カリキュラム、開講科目等

学部

学部プログラムでは、RREP必修科目を6科目12単位、学際選択科目をA、Bそれぞれから2科目4単位の、計4科目8単位以上取得することにより修了することができます。

区分	授業科目名	単位数	必要単位数	開講時間	全学共通科目(系)	専門科目(学部)
RREP必修科目	リーダーシップ概論	2	12	前期水5	県大	-
	フィールドワーク基礎技術論	2		1年後期集中	-	国商、環境※
	フィールドワーク基礎技術演習	2		1年後期集中	-	国商、環境※
	地域プロジェクト実践論	2		2年前期集中	-	国商、環境※
	地域プロジェクト演習	2		2年後期集中	-	国商、環境※
	地域インターンシップ実践論	2		2年後期集中	-	国商、環境※
学際選択科目A (専門基礎)	社会学概論	2	4	後期月1, 2	社会	-
	健康・スポーツ科学概論	2		後期月5	健康	-
	地理学概論	2		前期月5、集中	社会	-
	心理学概論	2		後期月5、前期月1, 2	人文	-
	文化人類学概論	2		後期火1 夏季集中	人文	-
学際選択科目B (専門応用)	地域社会学概論	2	4	前期月5	県大	-
	政策科学	2		前期月5	社会	-
	社会福祉学	2		前期月5	社会	-
	経営学概論	2		前期月5	社会	-
	地方自治学概論	2		後期火1	県大	-
	地域インターンシップ演習	2		3年前期集中	-	国商、環境※



学際リーダー（地域創生）

専門性を活かした
リーダーシップ
を有する

※環境人間学部において、副専攻科目を学部専門科目として扱う場合、学部専門科目として算入できる単位数は、合計10単位が上限となる。

※学際選択科目の開講時間については各学部の履修の手引きを確認すること。

大学院

区分	授業科目名	単位数	必要単位数	開講時間	科目種別	修了科目
RREP必修科目	コミュニティ・プランナー方法論	2	4	1年前期集中	全研究科共通	減災、環境
	コミュニティ・プランナー方法論実践	2		1年後期集中	全研究科共通	減災、環境



コミュニティ・プランナー

地域が求める
コミュニティ
づくりを計画する
力を有する

※大学院共通科目のため、どの研究科の学生でも受講できます。

※大学院の称号は、学際リーダー（地域創生）の称号取得者のみが、取得可能です。

《RREP 必修科目》

・ フィールドワーク基礎技術論



複雑な社会課題を構造的に読み解くため、フィールドワークの基礎的な技術やその方法論を学びます。特にケーススタディを通じて、大きなシステムを俯瞰的に見る方法を学習します。

・ フィールドワーク基礎技術演習



農村地域での体験学習や、リサーチプロジェクトを通じ、フィールドワークの基礎的な技術を演習形式で学びます。特に、チームビルディングの方法を実践して、関係者の考えを現場から引き出す経験を積みます。

・ 地域プロジェクト実践論



地域で取り組まれているプロジェクトの場での、参与観察やサービスラーニングを通じて、プロジェクトを実践する基礎的な経験を積みます。さらに、半構造化インタビューなどを通じて、好循環を探り、それを発展させる企画づくりに挑戦します。

・ 地域プロジェクト演習



実践論で企画したプロジェクトを他学部の学生とチームで、地域社会と関係づくりを進めながら社会実装する演習に取り組みます。その実践成果と課題を踏まえて、さらなる地域課題解決の好循環を生み出す、提案づくりに挑戦します。

・ 地域インターンシップ実践論



地域で活躍するロールモデルへのインタビューや現地での観察を通じて、地域で働く姿やキャリアの作り方を深く理解します。学生一人ひとりが、地域を舞台にどのように活躍したいのかという将来像を探究します。

5 学際リーダー教育としての学び

本学の学際リーダー教育は、「現代社会における多様な社会的課題に対して学際的な視点から対応し、優れたリーダーシップを発揮できる人材」を育成することを目的としています。そのための4つの学びの到達目標が定められています。RREPでは、この学際リーダー教育の理念を踏まえ、学際的視点を涵養する学際選択科目A・Bを土台とし、必修科目での実践経験を積み重ねることで、地域創生に資する学際リーダーとしての実践知——すなわち、対話力・俯瞰力・共創力の獲得を支援します。

＜学びの積み上げによる到達目標＞

到達目標Ⅰ 目的を達成するための課題の発見や実態の把握等ができる。

到達目標Ⅱ 有効な課題解決の方法等を応用し、発信できる。

到達目標Ⅲ 関わる人々の意見を有機的に集約し、それに基づいた解決策、方策等を提案できる。

到達目標Ⅳ 高い公平性を有している。

RREP 必修科目による 学際リーダーシップの実践知の獲得	到達目標1 俯瞰力	到達目標2 対話力	到達目標3 共創力	到達目標4 俯瞰力×共創力
リーダーシップ概論	○	○	○	○
フィールドワーク基礎技術論	◎	○	○	○
フィールドワーク基礎技術演習	○	◎	○	○
地域プロジェクト実践論	◎	○	◎	○
地域プロジェクト演習	○	◎	○	◎
地域インターンシップ実践論	○	○	◎	◎



6 履修方法、問合せ先

- (1) 定員 30名程度（応募者多数の場合は選抜を行います）
- (2) 募集時期 7 - 8月（結果発表 9月）
- (3) 応募方法 各学部掲示板に詳細を掲示
- (4) その他

①地域創生リーダー教育プログラムへの登録方法やRREP 必修科目の魅力は、

「リーダーシップ概論」「地域社会学概論」の講義内で詳しく説明します。本プログラムに興味のある学生には、1年生前期では「リーダーシップ概論」「地域社会学概論」の履修を強くお勧めしています。なお、「リーダーシップ概論」はプログラム開始後RREP 必修科目として扱われます。※2年生以降で受講することも可能です。

②学際選択科目のうち、他学部の開講科目を履修する場合は、学部ごとに履修要件が異なるため、詳しくは各学部の「履修の手引き」を確認してください。

③ RREP 必修科目は、全日程出席が前提です。

■問い合わせ先

地域創生リーダー教育プログラム推進室（RREP 推進室）
〒670-0092 姫路市新在家本町1丁目1-12 T棟
TEL：079-296-1501 Email：rrep@hq.u-hyogo.ac.jp



ホームページでさらに詳しく
<https://u-hyogo-rrep.net/>



最新の活動情報はSNSで
@rrep_hyogo

1 プログラムの目的・ねらい

グローバルリーダー教育プログラム (Global Leader Education Program、以下 GLEP とする) は、グローバルな視点と公共マインドを持ち、グローバルリーダーのための素養・能力を身につけ、専門知識とその応用力を発揮して、国際社会や地域社会において主体的な役割を担う人材の育成を目指します。

2 求める学生像

専門知識に加え、実践的英語力や第二外国語運用能力、グローバル教養、課題発見・解決力等を身につけ、社会に貢献したいという志を有する学生を求めます。一定の英語力は必要ですが、自ら進んで学ぶという学修に対する意欲や将来実現したいことに対する行動力、リーダーシップを重視します。

3 プログラムの概要

(1) プログラムの構成

GLEP は、語学力やグローバル教養を養成する国際コミュニケーション科目群とリーダーシップや課題発見・解決力を養成するリーダーシップ科目群で構成されます。各科目群は、全学共通科目、グローバルリーダー教育部門提供科目を組み合わせた体系的なプログラムです。

実施科目にはネイティブ講師が全て英語で実施する少人数編成の英語演習や、グローバル企業や国際機関での豊富な経験を持つ講師による講義があります。海外フィールドワークでは企業訪問、現地大学での特別講義や学生交流、フィールドワーク等を実施します。

また、2年次以降は、グローバル課題の解決に資するプロジェクトを企画・実施し、国際社会や地域社会で活躍するためのリーダーシップを身につける演習科目が用意されています。その他、他学部生と交流する GLEP 合宿や海外実務体験など、課外活動も充実しています。



(2) プログラムの特色

主体的に考える力や行動する力、チームで協働する力などを磨くため、体験・実践活動を重視した全学部共通のプログラムを実施します。

① グローバルプロジェクト演習：必修

海外フィールドワーク

- ・ 1年次2-3月や2年次8-9月に1-2週間で実施する海外研修
- ・ 対象国：インド、ドイツ、アメリカ、オーストラリア、台湾、ベトナム、タイ、中国など（年度ごとに異なる）
- ・ 学生交流やフィールドワークを通じた語学力、異文化理解力、課題発見・解決力の向上

プロジェクト演習

- ・ 国際社会や地域社会における課題の発見と解決への取り組みを実践
- ・ 少人数編成のグループワーク

②海外実務体験：選抜

- ・派遣国（実績）：アメリカ、香港、フランスなど
- ・選抜に合格した GLEP 生が、休暇期間中に実施する自主企画の海外実務体験
- ・兵庫県海外事務所や現地企業、NPO、大学等で就業体験
- ・大学が参加費の一部を助成

③課外事業の企画・運営

- ・GLEP 合宿

④英語自主学习

- ・書籍の貸出など、英語の自主学习支援（希望者）



海外フィールドワーク（アメリカ・インド）



GLEP 合宿



学生グループ活動「グローバルプロジェクト演習」

4 カリキュラム、開講科目等

(1) 修了要件及び称号の授与

GLEP では、国際コミュニケーション科目群 10 単位、リーダーシップ科目群 10 単位の合計 20 単位以上の修得、および英語外部試験での CEFR B2 レベル（英検準 1 級程度）のスコア獲得を修了要件として、「学際リーダー（グローバル）」の称号を授与します。

(2) 国際コミュニケーション科目群（全学部必須）

国際コミュニケーション科目群は 10 単位からなり、①実践的英語力、②第二外国語運用能力、③グローバル教養の獲得を到達目標としています。

区分	配当年次	国際コミュニケーション科目群	必要単位
基礎	1	外国語 1 ※1)	1
		外国語 2 ※1)	1
	1 ※2)	英語実習	1
		英語表現	1
		文化人類学概論	2
		国際関係学	2
		国際社会学概論	2

※1) 中国語 1, 2、韓国・朝鮮語 1, 2、ドイツ語 1, 2、フランス語 1, 2、スペイン語 1, 2（東地区のみ開講）より選択

※2) 1 年次での履修を推奨

(3) リーダーシップ科目群 (全学部必須)

リーダーシップ科目群は、①リーダーシップ、②課題発見・解決力の獲得を到達目標としています。1年次に修得するリーダーシップ概論の2単位と2-3年次に修得する演習科目8単位はいずれも必修科目で、合計10単位となります。基礎区分でリーダーシップの資質を身につけ、専門区分では海外フィールドワーク及び学生のグループごとに発見した課題を解決するプロジェクトを企画・実施します。

なお、2-3年次の「グローバルプロジェクト演習1～4」は毎月1回土曜日に、神戸商科キャンパスを中心に開講されます(他キャンパスでの実施や、オンライン併用の場合あり)。GLEP修了には、時間調整と、ある程度の交通費の準備が必要となります。

区分	配当年次	リーダーシップ科目群	必要単位	
基礎	1 ※1)	リーダーシップ概論	2	2
専門	2	グローバルプロジェクト演習1	8	2
	2	グローバルプロジェクト演習2 ※2)		2
	3	グローバルプロジェクト演習3		2
	3	グローバルプロジェクト演習4		2

※1) 1年次での履修を推奨

※2) 海外フィールドワークを含む



グローバルな課題解決に向けた取り組みを学び、実際の現場を経験する

5 履修方法、問合せ先

- ① 定員：兵庫県立大学全学部の1年生40名程度(グローバルビジネスコースの学生は対象外となります)
- ② 募集時期：6月応募、6-7月選考、7月結果発表(予定)
- ③ 応募方法：提出書類、記入方法、提出先等の詳細は、5月下旬頃「UNIVERSAL PASSPORT」に掲載予定
- ④ 履修方法：合格者のオリエンテーションで詳しい履修方法を説明
- ⑤ その他：
 - ・GLEP参加希望者は必ず1年次前期に「外国語1」、後期に「外国語2」を各自履修登録すること
 - ・9月下旬に1泊2日のGLEP合宿を実施予定。宿泊・食費約5千円(別途交通費)が必要
 - ・プログラム修了にかかる費用は原則、自己負担(一部助成金制度あり)
海外研修の自己負担額は派遣国により20-65万円程度(2025年度研修を参考)
 - ・社会情勢等の影響により実施内容や経費等に変更が生じる可能性があります。

■ 問合せ先 国際商経学部 GLEP 担当

神戸商科キャンパス GLEP 事務局

TEL : 078-647-7441 E-mail : global@ofc.u-hyogo.ac.jp

1 プログラムの目的・ねらい（ディプロマポリシー：DP1）

防災リーダー教育部門では、「**防災マインド（防災への優れた知識と行動する心）**」を持ち、地域や社会に貢献できる人材の育成を目指し、副専攻「防災リーダー教育プログラム」に位置づけて「防災教育」を推進しています。

この副専攻では、**減災復興学***に関する幅広い**知識**、学び考えたことや経験を仲間たちと共有し、自ら感じ、何ができるのかを考えながら、**現場力**を磨きます。さらに、**コミュニケーション能力**を高め、**実践力**を身につけます。その結果、社会に出たときに防災マインドを持って、冷静かつ的確に対応する**総合力（人間力）**を持った人材を育成します。

*減災復興学とは、「減災の総合化」という視点から減災と復興を一体的に捉えて、安全で安心できる社会の持続的発展を目指すための学問体系をいいます。また、この減災復興学に基づき「政策の現場化」において、現場から現場への政策的コミュニケーションを大切にし、研究や教育の社会的還元を目指します。減災復興政策研究科において、これら「減災の総合化」とあらゆる人々に届く「政策の現場化」を大切にするという考え方を科学的な視点から実践しています。



実践的な科目とフィールドワーク（防災実践講座、防災ゼミナール（少人数））、修了証授与式

2 求める学生像

特別必要な基礎知識やスキルはありません。上記目的にあるような、減災復興学に関する知識を身につけたいと考えている意欲的な学生を求めます。学部4年間で身につけた主専攻の内容に加え、さらに減災復興政策研究科で引き続き研究活動をしたいと考えている学生を求めます。

3 プログラムの概要

次の表のように、減災復興学3領域（「災害科学」、「減災コミュニケーション」、「減災復興ガバナンス」）に関する基礎知識を学べる科目、座学の講義だけでなく、受講者が実践的に活動する「防災実践講座」を用意しています。さらに、市民救命士及び防災関連の資格である「防災士」の受験資格を得ることができる「防災リーダー育成講座」、少人数で減災復興学に関する卒業研究や地域防災活動に参画する「防災ゼミナール I・II」があります。

副専攻・防災リーダー教育プログラムの定員は1学年30人で、要件を満たす20単位以上を修得すると、卒業時に卒業証書に加え、副専攻【**学際リーダー（防災）**】の称号を附した修了証を授与します。

4 カリキュラム、開講科目等

開講される科目は、以下の表のとおりです。そのうち、**共通（基礎）教育科目**は、「**全学共通科目（学際教育科目「県大特色系」）**」として卒業所要単位にカウントされます。また、本プログラムの専門教育科目は、基本的には学部の卒業所要単位にカウントされませんが、科目によっては、学部の専門教育（または、専門関連、専門基礎）科目として卒業所要単位に算入できるものがあります。専門教育科目のうち、**【専門区分D】**は副専攻生必修の科目になります。詳しくは、下表の「備考」欄や所属する学部の規程などで確認してください。

学修成果の評価は、試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多面的な方法で行います。

《防災リーダー教育プログラム 開講科目一覧》

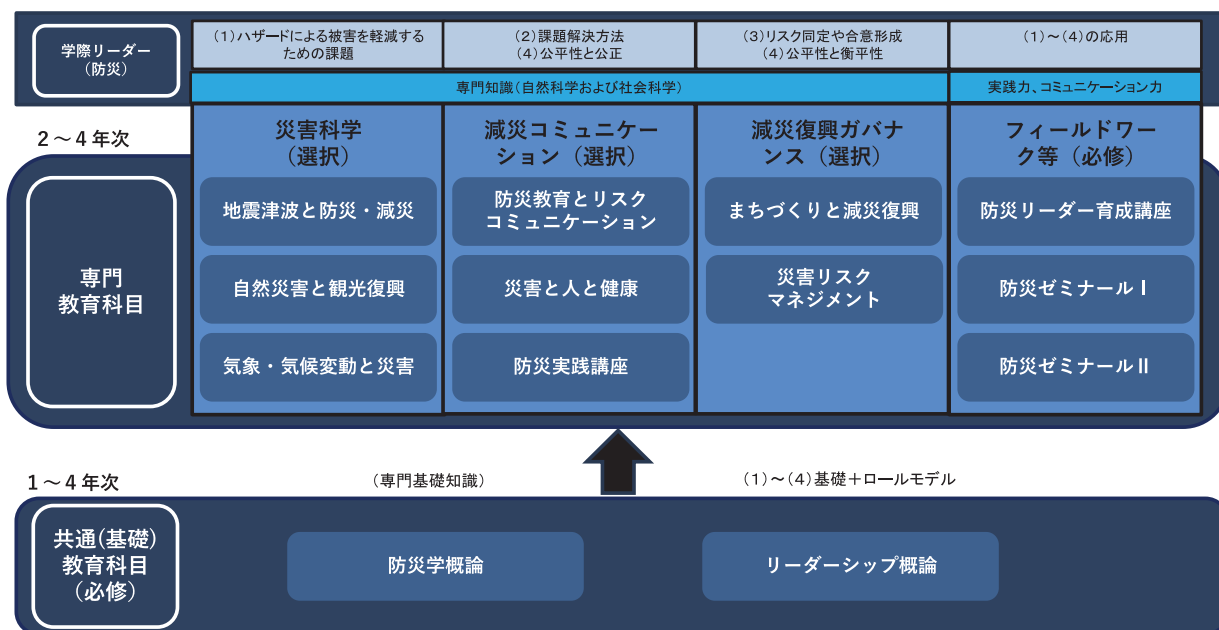
区 分	共通・専門	授業科目の名称	開 講 年 次	単 位	備 考
防災・減災 基礎	共通(基礎) 教育科目	防災学概論☆	1	2	全学共通科目
		リーダーシップ概論☆	1	2	全学共通科目
災害科学	専門教育科目 【専門区分A】	地震津波と防災・減災※	2	2	環境人間学部専門教育科目 理学部専門基礎科目
		自然災害と観光復興※	2	2	環境人間学部専門教育科目
		気象・気候変動と災害※	2	2	環境人間学部専門教育科目 理学部専門基礎科目
減災 コミュニ ケーション	専門教育科目 【専門区分B】	防災教育とリスクコミュニケーション※	2	2	環境人間学部専門教育科目
		災害と人と健康※	2	2	看護学部専門関連科目 I 環境人間学部専門教育科目
		防災実践講座※	2	2	環境人間学部専門教育科目
減災復興 ガバナンス	専門教育科目 【専門区分C】	まちづくりと減災復興※	2	2	環境人間学部専門教育科目 社会情報科学部専門科目
		災害リスクマネジメント※	2	2	看護学部専門関連科目 I 環境人間学部専門教育科目 国際商経学部専門教育科目
フィールド ワーク等	専門教育科目 【専門区分D】	防災リーダー育成講座※◇	2	2	
		防災ゼミナールⅠ※	2	2	少人数ゼミ型*と地域防災活 動参画型があります。
		防災ゼミナールⅡ※	2	2	少人数ゼミ型*と地域防災活 動参画型があります。

(注) ☆は、神戸商科キャンパスで対面式、姫路工学C（書写）へはオンライン配信します。
 ※は、神戸防災キャンパス（HAT 神戸）内の防災リーダー教育部門で、土曜日（前・後期各2部制）もしくは夏季集中の講義として開講します。**【専門区分D】**の3科目は2年次から4年次まで受講可能です。◇は、防災士の資格取得のための講義となります。資格取得のための教材費、受験料、認証登録料は自費となります。*少人数ゼミ型は減災復興政策研究科への進学を視野に入れた副専攻ゼミです。

《防災リーダー教育プログラムの修了要件と称号》

授与される称号	内 容	定 員	修了認定要件
学際リーダー (防災)	防災リーダーとしての知識や災害現場などでの実践力・コミュニケーション力が身につく	1 学年 30 人	20 単位 (10 科目) 以上 ただし、 * 共通 (基礎) 教育科目の 2 科目必修 * 【専門区分 A~C】それぞれ最低 1 科目必修 * 【専門区分 D】のすべての科目必修

《防災リーダー教育プログラムのカリキュラムマップ》



兵庫県立大学が目指す「学際リーダー」とは、
 (1) 目的を達成するための課題の発見や実態の把握等ができる
 (2) 有効な課題解決の方法等を応用し、発信できる
 (3) かかわる人々の意見を有機的に集約し、それに基づいた解決策、方策等を提案できる
 (4) 高い公平性を有している

5 履修方法、問合わせ先

防災リーダー教育プログラムの専攻生になるには、申請・登録が必要です。登録申請は、1年次の前期5月頃及び後期12月頃の2回に分けて、「ユニバーサルパスポート」(WEB)で行います。神戸商科キャンパスや姫路工学キャンパスの掲示板や防災リーダー教育プログラムの基礎科目の講義中に案内しますので、注意しておいてください。また、専攻生の希望者が定員を大きく超えた場合、選抜を行うことがあります。

【注意事項】

科目によっては、交通費や参加費などの諸経費が必要な場合があります。



【問い合わせ先】

神戸防災キャンパス内 防災リーダー教育部門 副部門長：教授 浦川 豪

TEL：078-271-3290 代表メール：gensai@ofc.u-hyogo.ac.jp

「兵庫県立大学神戸防災キャンパス」

HAT 神戸（神戸東部新都心）の「人と防災未来センター」東館 4 階および 6 階にあります。

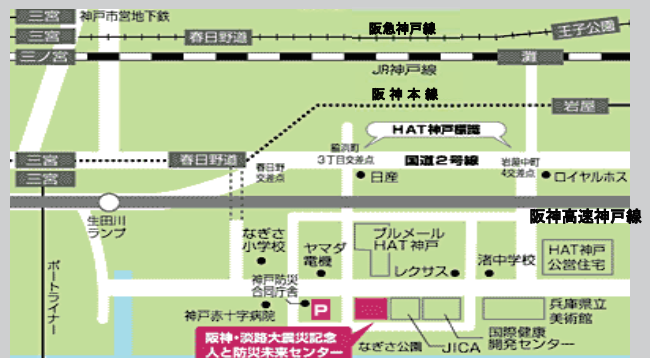
所在地：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

事務室 電話：078-271-3290 FAX：078-271-2702

アクセス：【電車】阪神電車「岩屋」駅・「春日野道」駅から南へ徒歩約 10 分、JR「灘」駅から南へ徒歩約 15 分、阪急電車「王子公園」駅から南へ徒歩約 20 分

【バス】三宮駅前から約 20 分（神戸市営バス・阪神バス）

※ 公共交通機関を利用してください（無料の駐車場はありません）。



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

兵庫県立大学副専攻規程

(趣旨)

第1条 この規程は、兵庫県立大学学則（平成25年法人規程第75号）第10条の2の規定に基づき、副専攻に関し必要な事項を定めるものとする。

(副専攻名等)

第2条 副専攻は、兵庫県立大学全学部共通とし、高等教育推進機構が設置する。

- 2 副専攻名、運営部門及び主たる担当学部等は別表第1のとおりとする。
- 3 副専攻における授与称号は別表第2のとおりとする。
- 4 各副専攻の運営に関し、必要な事項は別に定める。

(履修方法等)

第3条 副専攻の履修に係る申請方法、授業科目の種類及び取得しなければならない単位数等は、別に定める。

(修了認定)

第4条 副専攻の修了認定は、運営部門に置くその運営を審議する会議の議を経て、高等教育推進機構長が行う。

(修了証書の授与)

第5条 学長は、前条により副専攻を修了したと認定された学生に対し、副専攻修了証書を授与する。

- 2 前項により授与する副専攻修了証書は、様式第1号のとおりとする。

(委任)

第6条 この規程に定めるもののほか、副専攻の履修に関し必要な事項は、高等教育推進機構長が定める。

附 則

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年3月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、令和8年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規程の施行の日前から引き続いて在学している者については、改正後の副専攻名、運営部門、主たる担当学部等及び授与称号にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1

副専攻名	運営部門	主たる担当学部等
地域創生リーダー教育プログラム	地域創生リーダー教育部門	環境人間学部
グローバルリーダー教育プログラム	グローバルリーダー教育部門	国際商経学部
防災リーダー教育プログラム	防災リーダー教育部門	減災復興政策研究科

別表第2

副専攻名	授与称号
地域創生リーダー教育プログラム	学際リーダー（地域創生）
グローバルリーダー教育プログラム	学際リーダー（グローバル）
防災リーダー教育プログラム	学際リーダー（防災）

兵庫県立大学
副専攻修了証

第○○○○○○○号

氏 名
学籍番号

本学が実施する副専攻「○○○○○○○
○○」を修了したことを認め、「○○○○
○○」の称号を授与する

年 月 日

兵庫県立大学

大学
の印

